

2019 年秋季大会 領域 7 インフォーマルミーティング

日時：2019 年 9 月 12 日 12:30～13:30

場所：岐阜大学 K13 会場

主催：領域 7（運営委員）

議題目次

1. 学生優秀発表賞表彰式
2. 現領域代表、副代表、運営委員の紹介
3. 次期領域代表・副代表の選出[審議事項]
4. 次期領域運営委員の紹介
5. 次々期領域運営委員の選出・承認 [審議事項]
6. メーリングリスト運用に関して
7. 概要集提出率に関して
8. 各種賞について（米沢富美子記念賞・日本物理学会論文賞）
9. 関連会議・シンポジウムの紹介
10. 大会改革について
11. 次回大会について
12. その他（学生優秀発表賞について）

1. 学生優秀発表賞表彰式

領域代表・副代表・運営委員の経験者および候補者からなる 13 名に審査を依頼し、

- ・研究内容（研究の意義、新規性、妥当性）
- ・プレゼンテーション（ポスターの構成、伝わりやすさ、質疑応答）

＋学生優秀発表賞への推薦の観点で審査を行った。

その結果、以下の 2 名を受賞者として選出し、表彰式を行った。

- 10-aPS-109 渡辺 且弥（名大院工）
一軸配向した導電性高分子 PBTTT における熱電特性
- 10-aPS-116 西留 比呂幸（首都大理）
単層カーボンナノチューブにおける THz 高次高調波発生のキャリア注入依存性 2

2. 現領域代表、副代表、運営委員の紹介

領域代表：

山本 浩史（分子研）（任期：2019 年 4 月 ～ 2020 年 3 月）

領域副代表：

岡田 晋 (筑波大) (任期 : 2019 年 4 月 ~ 2020 年 3 月)

領域運営委員 :

菅原 克明 (東北大) (任期 : 2018 年 10 月 ~ 2019 年 9 月)

吉見 一慶 (東大物性研) (任期 : 2018 年 10 月 ~ 2019 年 9 月)

蓬田 陽平 (首都大) (任期 : 2019 年 4 月 ~ 2020 年 3 月)

磯野 貴之 (学習院大) (任期 : 2019 年 4 月 ~ 2020 年 3 月)

3. 次期領域代表・副代表の選出・承認 [審議事項]

次期代表・副代表として以下の方々を選出し、承認された。

次期領域代表 :

岡田 晋 先生 (筑波大) (任期 : 2020 年 4 月 ~ 2021 年 3 月)

次期領域副代表 :

小形 正男 先生 (東大) (任期 : 2020 年 4 月 ~ 2021 年 3 月)

4. 次期運営委員の紹介

次期領域運営委員 :

蓬田 陽平 (首都大) (任期 : 2019 年 4 月 ~ 2020 年 3 月)

磯野 貴之 (学習院大) (任期 : 2019 年 4 月 ~ 2020 年 3 月)

大池 広志 先生 (東大) (任期 : 2019 年 10 月 ~ 2020 年 9 月)

圓谷 貴夫 先生 (熊本大) (任期 : 2019 年 10 月 ~ 2020 年 9 月)

5. 次々期運営委員の選出・承認 [審議事項]

現運営委員により、次々期運営委員として以下の方々を選出し、承認された。

次々期領域運営委員 :

野村 悠佑 先生 (理研) (任期 : 2020 年 4 月 ~ 2021 年 3 月)

土屋 聡 先生 (北海道大) (任期 : 2020 年 4 月 ~ 2021 年 3 月)

6. メーリングリスト運用に関して

以下の内容を周知した。

■ 現在のメーリングリストの状況

アドレス数上限 : 1000

登録アドレス数 : 936 (2019 年 9 月 11 日現在)

勝手ながら、講演者のアドレスは運営委員が登録しています。

・ 卒業などで使われなくなったアドレスについて削除の連絡をお願いします
・ なお、研究室 ML によって登録されているアドレスからは
bunyu4@r7.div.jps.or.jp, committee_r7@jps.or.jp への投稿はできません。

(投稿の必要がある場合には、ML に直接登録してあるメールアドレスをお持ちの方にお問い合わせするか、運営委員のメールアドレスに直接、ご連絡をお願いします)

7. 概要集提出率に関して

2019 年秋季大会における領域 7 の概要集提出率は 93.9%であり、全領域中 7 番目であったことが報告された。

8. 各種賞について(米沢富美子記念賞・日本物理学会論文賞)

米沢富美子記念賞および日本物理学会論文賞について周知された。詳細は以下の通り。

・米沢富美子記念賞

【賞について】

米沢富美子慶應大学名誉教授は、コヒーレントポテンシャル近似や、金属絶縁体転移の理論など物理学研究に大きな足跡を残され、女性として初めての日本物理学会会長（第 52 期）をお務めになり、更に「女性科学者に明るい未来をの会」会長として女性科学者の支援にもご尽力されました。日本物理学会では、米沢富美子氏のこれまでの業績を記念し、女性会員の物理学分野における活動を讃え、奨励するため、日本物理学会 米沢富美子記念賞を設立いたしました。

【受賞の対象者】

日本物理学会の女性会員で、2019 年 10 月末日において博士またはそれに相当する学位取得後 15 年以内、あるいは学位未取得の場合は 45 歳以下の方。諸事情により物理分野での活動に空白期間があれば、その年月は考慮いたします。

【評価の対象】

米沢富美子記念賞（以下、本賞）の選考においては、研究業績、物理学教育活動、本会活動への貢献、その他物理学分野の発展に関わる社会的活動などの業績一般を評価対象といたします。

本賞は、本会が授賞する他の賞からは全く独立です。

【応募方法・提出先について】

募集要項などの記載がございます日本物理学会 web site (<https://www.jps.or.jp/activities/awards/yonezawa.php>)をご参照ください。

【募集締め切り】

領域 7 締め切り 2019 年 9 月 30 日（月）

・日本物理学会論文賞

【表彰対象論文】

原則として表彰年度の前年 6 月から遡って 10 年以内に「Journal of the Physical Society of Japan」(Supplement を含む)、「Progress of Theoretical and Experimental Physics」(その前身 Progress of Theoretical Physics とその Supplement を含む) 及び「JPS Conference Proceedings」に発表された原著論文が対象。詳細は 論文賞規定を参照。

【推薦書類】

領域 7 web site からダウンロードが可能。

領域 7 メーリングリストに推薦書類を送付済み。

【募集締め切り】

領域 7 締め切り 2019 年 9 月 30 日 (月) 必着

【推薦書類提出先】

領域 7 代表 山本 浩史, 副代表 岡田 晋

9. 関連国際会議・シンポジウムの紹介

(1) 秋季大会 領域 7 シンポジウム

“見えてきたナノチューブ固有の新しい物理現象 (Emerging intrinsic physical properties of nanotubes)”

【日程】2019 年 9 月 11 日(水) 【開催場所】 岐阜大学

登壇者 ・河野 淳一郎 (ライス大)・片浦 弘道 (産総研) ・西原 大志 (京大)・加藤 雄一郎 (理研)・本間 芳和 (東理大)・岩佐 義宏 (東大工、量子相)・丸山 茂夫 (東大工、機械)

[審議事項]

毛利先生(立命館大)から留学生や外国人研究者の物理学会参加を促進するためのシンポジウム講演の言語英語の継続化 (ただし質疑応答は日本語英語両方可) について提案がなされた。英語化に関する経緯、英語化による長所・短所など紹介された。審議を行なった結果、シンポジウムだけの英語講演化に関して、過去に物理学会で議論をなされたのか等問い合わせた後に、領域会議に提案検討をすることとなった。

10. 大会改革について

物理学会運営に関するこれまでの問題点解決に向けた新たな試みについて、問題点を含めて説明がなされた。具体的には下記の通り。

【物理学会運営に関するこれまでの問題点】

1. 講演者数の減少
2. 大会事業の赤字経営
3. 開催可能性(大学)の減少

【解決策】

1. 2020 年年次大会より冊子体プログラムの廃止
 - ・プログラム pdf ファイルの事前ダウンロードによるタブレットやスマートフォンの有効活用
 - ・講演申し込み締め切りを約 2 週間遅らせる予定
2. 2021 年年次大会より大会会場の有効活用
 - ・使用する部屋数を 3/4 に減らす
 - ・論文賞表彰式、総合講演をパラレルセッションの一つと位置づけ、その間通常セッションも行う。総合講演に関しては動画撮影を行い、会員マイページで配信することを予定
 - ・午前や午後のセッションの前半、後半に異なる領域のセッションが入るようにプログラム編成
 - ・初日午前や最終日午後にも講演が多く入るようにプログラム編成

大会改革に関して説明した後、本改革が決定事項であることやプログラム編成に関して質疑応答がなされた。

11. 次回大会について

第 75 回年次大会 名古屋大学(東山キャンパス)

2020 年 3 月 16 日(月)～19 日(木)

12. その他

【学生優秀発表賞に関して】

学生優秀発表賞に関する領域 7 のこれまでの経緯、ポスター発表と同様に口頭発表もまた審査対象にすべきかという議論の論点、および本学会における領域 7 運営委員の動きについて説明がなされた。今回の試みとして、年 2 回ポスター発表のみ対象とした際の効果について検証を行うため、前回と今回の学生発表件数の変化の調査、および審査委員・受賞学生指導教員に対して学生優秀発表賞に関するアンケートを実施することとした(資料 1)。今後も口頭発表を審査対象とすべきか議論を継続するとともに、学生発表件数の動向および、アンケート結果を集約し、状況を見て再度審議することとなった。

[資料 1] 【学生優秀発表賞に関して】

【応募件数動向】

	口頭発表		ポスター発表		全講演数
	職員	学生	職員	学生	
2018 年秋季	62	35	8	20	125
2019 年年次	59	23	6	18	106
2019 年秋季	57	24	11	23	115

【アンケート項目および結果】

学生優秀発表賞の応募経験あり (3 名)

1. 学生優秀発表賞があることで、
研究発表へのモチベーションがあがりますか？
はい：2 件、いいえ：1 件
2. 学生優秀発表賞のために、口頭発表よりポスター発表を選択することは
あります(した)か？
はい：2 件、いいえ：1 件
3. 学生優秀発表賞があるために、物理学会に参加することを決めました
か？
あるいは同じ理由で先生に参加を勧められたことはありますか？
はい：2 件、いいえ：1 件
4. ポスター発表より口頭発表で審査された方が名誉に感じますか？
はい：1 件、いいえ：2 件
5. 学生優秀発表賞が口頭発表のみの場合、
ポスターから口頭発表に切り替えますか？
はい：3 件、いいえ：0 件
6. ポスターの審査による学生優秀発表賞が無くなった場合、
発表自体を取りやめる可能性はありますか？
はい：0 件、いいえ：3 件

審査員 (12 名)

1. ポスター発表で学生の力量を十分測れましたか？
はい：11 件、いいえ：1 件
2. ポスターよりも口頭の方が、学生の力量が測れると思いますか？
はい：1 件、いいえ：11 件
3. 口頭発表では審査の負担が増えることが予想されますが、
それを補って余りある利点はあると思われますか？
はい：1 件、いいえ：11 件

4. 現在のポスター審査における審査委員の負担具合はちょうどよいですか？

はい：11件、いいえ：0件、その他：1件

(その他で寄せられたコメント)

基本的に問題ない負担の程度だと思うが、賞をとる気概のない発表の審査は精神的に消耗するので避けてほしい。

コメント

1. 明らかに賞をとろうというほどのやる気がない発表の審査に当たったこともあった
(例えばアブストが出ていない発表など)。審査負担や賞のクオリティ維持のためにも、スクリーニング、もしくは、本当に賞を取る気がある人のみ応募するように周知するべきかと思う。
2. 私が所属する研究室は、口頭発表を優先する傾向にあるため、学生優秀発表賞の審査対象が口頭発表である領域4を主として登録し、領域7を合同希望として登録してきました。研究室によっては発表形式によって優先度が異なる可能性があるかと思います。
3. 基本的にポスター発表の方が学生の実力を測れるので、学生賞には好ましい。ポスター発表の最大の欠点は、優秀な発表が口頭発表からポスター発表に流れてしまうという点だと思う。なので、ポスター発表と同内容の口頭発表を許可するというのが審査負担からも最善の解だと思う。ただし、そのためには年次大会の1発表縛りや、業績のダブルカウント問題をうまく回避することが不可欠ですが、これはなんとか方便を見つけてやってもらえないでしょうか。例えば、次回学会での受賞記念講演とかで(M2,D3問題はありますが、ある程度は諦めるしか無い)
4. 経緯をちゃんと理解している訳ではありませんが、ポスターのみを対象とするなら、賞の名称を、学生優秀ポスター賞などとした方が良いと思います。口頭発表よりポスター発表の方が質的に落ちる印象は受けました。もし学会の規定で、学生優秀ポスター賞等への名称が変更できないなら、口頭発表も審査に含めるべきかと思います。ただ、口頭発表は4日間に分散していますで、審査が煩雑になりすぎます。そこで、審査を希望される口頭発表については、口頭発表に加えて、ポスターセッション時に、口頭発表の内容についてのポスターを発表してもらうのは如何でしょうか？このようにすれば、一回のポスターセッションの時に、優秀賞の審査を済ませることがができますので、審査の効率性と公平性が保証されるのではないかと思います。ただ、口頭発表に加えてポスター発表をするとすると、形式上同一内容で2回登壇することになってしまうので、その点のテクニカルな点は議論が必要になってくるかもしれません。
5. 審査自体をWEBからできるようにしてもらえると助かります。
6. 学生に声をかけるきっかけになったので良かった。

最後に意見・コメントを募ったところ、特に質問等はなかった。今後も口頭発表も審査対象とするのか、学生発表件数の動向および、アンケート結果を集約し、状況を見て再度審議することとなった。